

# SYMPHONY

 TOKYO  
SYMPHONY  
ORCHESTRA  
Lorenzo VIOTTI, Music Director

**80**  
th  
ANNIVERSARY

NO. 741

SAT. 13TH JUNE  
SUBSCRIPTION CONCERT

NO. 742

SAT. 27TH JUNE  
SUBSCRIPTION CONCERT

NO. 146

SUN. 28TH JUNE  
NIIGATA SUBSCRIPTION CONCERT

2026  
JUNE

6

**音楽監督** ロレンツォ・ヴィオットイ  
**桂冠指揮者** ユベール・スダーン  
**名誉客演指揮者** 大友直人  
**永久名誉音楽監督** 秋山和慶 ◆  
**永久名誉指揮者** アルヴィド・ヤンソンス ◆  
 上田 仁 ◆  
 遠山信二 ◆

**名誉コンサートマスター** 大谷康子

**第1コンサートマスター** 小川ニキティングレブ  
 景山昌太郎  
 小林宍成

**コンサートマスター** 吉江美桜  
 田尻 順

**会 長** 澤田秀雄  
**理事長** 岡崎哲也  
**副理事長** 平澤 創  
 依田 巽  
**専務理事** 廣岡克隆  
**理 事** 阿部武彦 永山 治  
 池辺晋一郎 夏野 剛  
 伊藤美樹 南部靖之  
 大橋 博 福川伸次  
 コシノジュン 増岡聡一郎  
 菅谷貴子 森 京子  
 竹中平蔵  
**監 事** 寺西基之  
 渡邊芳樹  
**評議員長** 梅沢一彦  
**評議員** 穴水 孝 金山茂人  
 鷲海量明 星 久人  
 片山泰輔 芳野まい  
 加藤英輔  
**最高顧問** 金山茂人  
**特別顧問** 飯島延浩 福田紀彦  
 窪田雅己

## 1st Violins

○木村正貴  
 ○堀内幸子  
 ○森岡ゆりあ  
 小川敦子  
 立岡百合恵  
 土屋杏子  
 中村楓子  
 水谷有里  
 吉川万理

## 2nd Violins

◎清水泰明  
 ◎服部亜矢子  
 ◎加藤まな  
 ○福留史紘  
 河裾あずさ  
 小山あずさ  
 鈴木浩司  
 吉田のみり  
 阿部真弓  
 坂井みどり

## Violas

◎青木篤子  
 ◎武生直子  
 ◎西村真紀  
 ◎多井千洋  
 ○山廣みほ  
 新井瑞穂  
 小西応興  
 鈴木まり奈

## Cellos

☆伊藤文嗣  
 ○川井真由美  
 内山剛博  
 蟹江慶行 ●  
 樋口泰世  
 福岡茉莉子  
 渡邊ゆかり

## Double Basses

▣助川 龍  
 ◎コーディネーターズ  
 ローズブーム  
 ○北村一平  
 ○久松ちず  
 ○安田修平  
 渡邊淳子  
 内岡沙月 \*

## Flutes

▣相澤政宏  
 ◎竹山 愛  
 ◎知久 翔 \*

## Flute & Piccolo

濱崎麻里子

## Oboes

◎荒 給理子  
 ◎荒木良太  
 浦脇健太

## Clarinets

◎エマニエル・ヌヴー  
 ◎吉野亜希菜  
 近藤千花子  
 務川広貴

## Bassoons

◎福士マリ子  
 ◎福井 威  
 坂井由佳  
 前岡祐紀

## Horns

◎上間善之  
 白井有琳  
 藤田麻理絵  
 津守隆宏 \*

## Trumpets

◎澤田真人  
 ◎ローリー・ディラン  
 野沢岳史 ●  
 松山 萌  
 早野舞花 \*

## Trombones

◎大馬直人  
 ◎鳥塚心輔  
 住川佳祐

## Bass Trombone

藤井良太

## Tuba

近藤陽一

## Timpani & Percussions

◎清水 太  
 ◎山村雄大  
 武山芳史  
 綱川淳美

## Harp

渡辺沙羅

## Librarians

林 知也  
 カーン日和 \*

## Stage Managers

西岡理佐  
 山本 聡

## 荣誉団員

井伊 準 ◆

## 楽団長

廣岡克隆

## 編成局シニアディレクター

藤原 真

## 編成局

パーソネルマネージャー  
 謝名元 民

## 楽団委員

小西応興(議長)  
 浦脇健太(書記)  
 清水 太  
 清水泰明  
 鈴木浩司  
 綱川淳美

## 事務室長

荒井宣之

## 事務局

□高瀬 緑  
 市川晴都  
 伊藤瑛海  
 櫻 日向  
 小川博司  
 桐原美砂  
 後藤絢首  
 長久保宏太郎  
 三橋真琴  
 山田道子  
 山本未央子  
 □樋本純子  
 澤戸雅美 \*

## 名誉団員

深江泰輔 ◆  
 三木篤雄 ◆

## 団 友

大野佳和  
 安藤史子  
 池田 肇  
 石川晴依世  
 今村和弘  
 岩澤淳子  
 土原規晴  
 内田彬盛  
 内田乃例子  
 宇都 実  
 梅田 学  
 大塚雅人  
 大塚正昭  
 大塚展男  
 大和田浩明  
 大和田ルース  
 狩野 昇  
 奥田昌史  
 菅川雅二  
 加藤谷直美  
 笠原勝二  
 甲斐さち  
 加藤信吾  
 金澤 茂  
 久保田一穂  
 熊谷仁士  
 萬原亮司  
 小林照雄  
 小林利彰  
 小林亮子  
 阪本正彦  
 佐川聖二  
 佐々木真  
 塩谷しずか  
 織崎 隆  
 菅野明彦  
 杉浦直基  
 鈴木一博  
 曾根敦子  
 高野成之  
 武田英昭  
 田中真輔  
 千村雅信  
 十嶋正司  
 敷山 悟  
 永井聖乃  
 中塚博則  
 中山 智  
 新澤義美  
 西依智子  
 西脇秀治  
 野村真澄  
 馬場隆弘  
 原田美保子  
 白野 美  
 ベアテン・  
 ボーマン  
 前田健一郎  
 松崎里絵  
 丸山正昭  
 三浦正信  
 宮原祐子  
 宮本直樹  
 宮本 聡  
 森みさ子  
 諸橋健久  
 渡辺 功  
 渡辺裕郎  
 渡辺裕子

# 演奏会でのお願い

## Concert Manner Guide



### チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。  
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



### 開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



### 補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



### 周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



### 開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



### 演奏中の飲食は ご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



### 演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



### 咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



### 曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



### カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。  
※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

# 6/13

SAT

## 第741回 定期演奏会

2026年6月13日(土) 18:00 サントリーホール

## Subscription Concert No.741

Sat. 13th June 2026, 18:00 Suntory Hall

オスモ・ヴァンスカ [指揮]

Osmo VÄNSKÄ, Conductor

小川ニキティングレブ [コンサートマスター]

OGAWA Nikitingleb, Concertmaster

ベートーヴェン:交響曲 第8番 へ長調  
op.93 (30')

BEETHOVEN: Symphony No.8 in F major  
op.93 (30')

- I.アレグロ・ヴィヴァーチェ・エ・コンプリオ
- II.アレグレット・スケルツァンド
- III.テンポ・ディ・メヌエット
- IV.アレグロ・ヴィヴァーチェ

- I. Allegro vivace e con brio
- II. Allegretto scherzando
- III. Tempo di menuetto
- IV. Allegro vivace

休憩(20')

Intermission (20')

ラフマニノフ:交響曲 第2番 ホ短調  
op.27 (55')

RACHMANINOFF: Symphony No.2  
in E minor op.27 (55')

- I.ラルゴ・アレグロ・モデラート
- II.アレグロ・モルト
- III.アダージョ
- IV.アレグロ・ヴィヴァーチェ

- I. Largo-Allegro moderato
- II. Allegro molto
- III. Adagio
- IV. Allegro vivace

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.5をご覧ください



アンケート  
ご協力をお願い



©Joel Larson

# Osmo VÄNSKÄ

Conductor

オスモ・ヴァンスカ  
[指揮]

フィンランドを代表する世界的名匠。米国ミネソタ管第10代音楽監督を19年務め、現在は桂冠指揮者。フィンランド・ラハティ響桂冠指揮者、アイスランド響名誉指揮者。クラリネット奏者としてキャリアをスタートさせ、ヘルシンキ・フィル首席奏者を務めたことでも知られる。幅広いレパートリーと説得力ある解釈、指揮台でのエネルギッシュな存在感は圧倒的。録音も多く、グラミー賞受賞やグラモフォン・オブ・ザ・イヤーにも選ばれるなど高い評価を得ている。ミネソタ管とは、キューバや南アフリカへの画期的なツアーを行い、2018年夏のBBCプロムスで指揮し絶賛された。

今シーズンはバイエルン放送響、オスロ・フィル、ベルゲン・フィル、ヘルシンキ・フィル、アントワープ響、さらにバーミンガム市響など主要オーケストラに客演し、カーティス音楽院とも協働している。

2025年3月の東京交響楽団定期演奏会での初登場は大絶賛を浴び、高い評価を得た。

Osmo Vänskä is Conductor Laureate of the Minnesota Orchestra, where he served as Music Director for 19 years, and was Music Director of the Seoul Philharmonic Orchestra from 2020 to 2023. Known for his dynamic podium presence and inclusive leadership style, he has built enduring relationships with orchestras worldwide. His tenure in Minnesota included five major European tours and landmark visits to Cuba (2015) and South Africa (2018), the latter marking the orchestra's role in Nelson Mandela's centenary celebrations.

Vänskä is a prolific recording artist with BIS, having completed cycles of Mahler, Beethoven, and Sibelius symphonies with Minnesota Orchestra. His recordings have earned multiple Grammy nominations and a win in 2014. He studied conducting at the Sibelius Academy and began his career as a clarinetist with the Helsinki Philharmonic.

He continues to guest conduct internationally and this season appears with orchestras such as Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, Oslo Philharmonic, Gothenburg Symphony, Bergen and Helsinki Philharmonic orchestras, Antwerp, and Iceland symphonies as well as City of Birmingham Symphony Orchestra, and continues to collaborate with the Curtis Institute of Music. Vänskä also performs chamber music and has recorded works for clarinet and violin with his wife, Erin Keefe. His honors include the Pro Finlandia medal and awards from the Royal Philharmonic Society and Musical America.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)

## 交響曲 第8番 へ長調 op.93

交響曲第8番は、1812年の春から夏にかけて、ベートーヴェンが公私ともに激動の最中にあった時期に作曲された。聴力悪化、体調不良、経済不安、弟ヨハンの結婚問題への介入などがあったなかで、春には交響曲第7番を完成させ、同時に第8番の作曲を開始したのである。

7月には現在のチェコにある温泉地テプリツェで、ゲーテとの初対面を果たした。2人はこの時、なんと3日間にわたって親しく語り合ったと言われている。有名な「不滅の恋人」への手紙も、まさにこの滞在中のことだ。

その後、8月8日から約1ヶ月間、テプリツェからほど近い温泉地フランチシュコヴィ・ラズニェに滞在し、本作の作曲を一気にすすめた。

当時の社会情勢は、ナポレオンのロシア遠征に対して、オーストリアが同盟国として参戦しているという状態だった。温泉保養地には、各界の要人が集まっていたそうで、独特の緊張感があつたらしい。

あくまで想像だが、第5番《運命》、第6番《田園》、第7番など、当時の交響曲としては規模の大きい作品を発表し、独自のスタイルを追求していたベートーヴェンが、この時期に、目立って古典的な第8番を完成させた背景には、ゲーテとの邂逅や社会の動きが影響しているのかもしれない。

公開初演は1814年2月27日(日)、ウィーンの宮廷内舞踏場大ホール(レドューテンザール)における慈善演奏会にて、本人

の指揮で行われた。演目は、第8番の初演に始まり、第7番の再演、三重唱op.116の初演、《ウェリントンの勝利》というものだった。特筆すべきは奏者の数だ。弦楽器は第一、第二ヴァイオリン各18名、ヴィオラ14名、チェロ12名、コントラバス7名、管楽器も通常の倍の24名、ティンパニ1名の、総勢94名程度だったらしい。これは当時の常識の4-5倍に相当する人数で、ベートーヴェンの生涯でも最大級だったとのこと。当時の新聞などでは好意的に受け入れられ、たとえば「ウィーン新聞」では、「拍手が満場にあふれ、聴衆の陶醉は極限に達した」と報じられている。

小石かつら Text by KOISHI Katsura

作曲:1812年春から遅くとも1813年4月まで

初演:1814年2月27日ウィーン、レドューテンザール

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

セルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)

## 交響曲 第2番 ホ短調 op.27

1906年末から翌年にかけて、ラフマニノフはオペラ《モンナ・ヴァンナ》と並行して、《交響曲第2番》と《ピアノ・ソナタ第1番》という二つの大作に取り組んでいた。しかし当時の彼は自己評価が著しく低く、特に交響曲に対して強い不安を抱いていた。1897年の《交響曲第1番》初演時に受けた酷評の記憶が、依然として創作の重荷となっていたのである。結果的に《モンナ・ヴァンナ》は未完に終わり、《ピアノ・ソナタ第1番》も評価が分かれるが、《交響曲第2番》は今日、彼の交響的創作の頂点とみなされている。

当時のロシアは第一次革命後の弾圧と退潮の時代で、知識人層には不安と動揺が広がっていた。作曲家の間では哲学的・抽象的な思索が強まり、スクリャービンの神秘主義はその極端な例である。ラフマニノフ自身はこうした思弁的傾向には馴染まなかったが、より大きな精神的テーマを求めていたことは確かである。《交響曲第2番》は、彼が改めて「ロシア」という根源的テーマに向き合う試みであり、その重さが故に創作を困難にしていた。

この作品ほど「ロシアの歌謡的・抒情的交響曲」と呼ぶにふさわしいものはない。冒頭の緩徐導入部では、陰鬱な響きの中から三度音型の素朴な動機が「歌」へと成長し、広大な旋律の流れを形づくる。この音響は、色彩感、緩やかな展開、ホ短調の調性感、木管の悲しげな和音などの点で、オペラ《けちな騎士》の導入部

を継承している。全曲を通じて歌謡性が支配し、対位法的な副声部の充実、和声の旋律化、合唱的な弦の響きなど、ラフマニノフ独自の音響世界が展開される。

第2楽章は力強いリズムと鋭い動機が駆動するスケルツォで、鐘を模したカンパネッラが色彩を添える。中間部では複雑なポリフォニーが渦を巻き、エネルギーの奔流を思わせる。続くアダージョはロシア的抒情の極致で、自然への深い観想を思わせる旋律が静かに広がる。

終楽章では祝祭的な高揚が全曲を締めくくる。行進風のリズムと歌謡的テーマが結びつき、苦悩を越えて光へ向かうような力強い結末が築かれる。こうしてラフマニノフは、内的葛藤を抱えながらも、ロシアの歌謡性を壮大な交響的スケールで結実させたのである。

神竹喜重子 Text by KAMITAKE Kieko

作曲:1907年

初演:1908年2月21日ロシア・サンクトペテルブルク(マリインスキー劇場)、セルゲイ・ラフマニノフ指揮

編成:フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ3(イングリッシュホルン持替1)、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ2、大太鼓、小太鼓、シンバル、グロッケンシュピール、弦5部

# 6/27 6/28

SAT

SUN

## 第742回 定期演奏会

2026年6月27日(土) 18:00 サントリーホール

## Subscription Concert No.742

Sat. 27th June 2026, 18:00 Suntory Hall

## 第146回 新潟定期演奏会

2026年6月28日(日) 17:00 リゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

## Niigata Subscription Concert No.146

Sun. 28th June 2026, 17:00 Ryutopia Concert Hall

沖澤のどか [指揮]

藤木大地\* [カウンターテナー]

東響コーラス [合唱] (6/27)

にいがた東響コーラス [合唱] (6/28)

キハラ良尚 [合唱指揮] (6/27)

水戸博之 [合唱指揮] (6/28)

小川ニキティングレブ [コンサートマスター]

OKISAWA Nodoka, Conductor

FUJIKI Daichi\*, Countertenor

Tokyo Symphony Chorus, Chorus(6/27)

Niigata Tokyo Symphony Chorus, Chorus(6/28)

KIHARA Yoshinao, Chorusmaster(6/27)

MITO Hiroyuki, Chorusmaster(6/28)

OGAWA Nikitingleb, Concertmaster

デュカス:交響詩「魔法使いの弟子」(12')

グノー:歌劇「ファウスト」から「ワルツ」(10')

「バレエ音楽」(15')

I.アレグレット(テンポ・ディ・ヴァルセ)

II.アダージョ

III.アレグレット

IV.モデラート・マエストロ

V.モデラート・コン・モート

VI.アレグレット

VII.アレグロ・ヴィーヴォ

休憩(20')

DUKAS: The Sorcerer's Apprentice(12')

GOUNOD: "Waltz"(10') from "Faust"

"Ballet Music"(15') from "Faust"

I. Allegretto (Tempo di Valse)

II. Adagio

III. Allegretto

IV. Moderato Maestoso

V. Moderato con moto

VI. Allegretto

VII. Allegro vivo

Intermission(20')

メンデルスゾーン:序曲

「静かな海と楽しい航海」op.27(12')

ブラームス:運命の女神の歌 op.89(13')

ブラームス:アルト・ラプソディ op.53\*(15')

MENDELSSOHN: Calm Sea and

Prosperous Voyage, Overture op.27(12')

BRAHMS: Gesang der Parzen op.89(13')

BRAHMS: Alto Rhapsody op.53\*(15')

●主催/公益財団法人東京交響楽団(6/27)・公益財団法人新潟市芸術文化振興財団・BSN新潟放送(6/28)

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(6/27)

文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(6/28)

新潟定期演奏会は、新潟市から補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.10をご覧ください



アンケート  
ご協力をお願い

6/27 6/28

SAT

SUN



©Felix Broede

# OKISAWA Nodoka

Conductor

沖澤のどか  
[指揮]

青森県生まれ。京都市交響楽団第14代常任指揮者、セイジ・オザワ松本フェスティバル首席客演指揮者、「青い海と森の音楽祭」芸術総監督を務める。東京藝術大学指揮科首席卒業、同大学院修士課程修了。ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン修士課程オーケストラ指揮専攻修了。プザンソン国際指揮者コンクール優勝。同時に聴衆賞、オーケストラ賞を受賞。東京国際音楽コンクール(指揮)第1位・特別賞・齋藤秀雄賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞 指揮部門など受賞多数。

2025/2026シーズンにはボストン響、ロンドン・フィル、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管、ハレ管等にデビュー。メルボルン響をはじめオーストラリア・ニュージーランドにも活躍の場を広げている。2022/23シーズンにはミュンヘン響アーティスト・イン・レジデンスを務めた。オペラでもセイジ・オザワ松本フェスティバル『フィガロの結婚』『真夏の夜の夢』、東京二期会『メリー・ウィドー』『カルメン』などを指揮。国内主要オーケストラへも定期的に客演する一方、東京交響楽団とも2019年以来共演を重ねており、今回が定期演奏会デビューとなる。

Nodoka Okisawa has been Chief Conductor of the City of Kyoto Symphony Orchestra since 2023, with her contract recently extended through March 2029. In 2024, she was appointed the first-ever Principal Guest Conductor of the Matsumoto Festival by Seiji Ozawa, and she also serves as General and Artistic Director of the Aoiumi to Mori Music Festival.

Debuts this season include the London Philharmonic Orchestra, Hallé Orchestra, Dortmund Philharmonic, Latvian National Symphony, Auckland Philharmonia Orchestra, and Boston Symphony Orchestra, alongside return engagements with the Melbourne, Winnipeg, and Extremadura Symphony Orchestras.

Recent highlights include appearances with major ensembles such as the NHK Symphony Orchestra, Royal Scottish National Orchestra, and Orchestre symphonique de Québec. In opera, she conducted Bizet's Carmen at Tokyo Nikkai Opera Foundation in 2025, following earlier success with The Merry Widow.

A prizewinner at both the Besançon International Conducting Competition (2019) and the Tokyo International Music Competition (2018), Okisawa held a scholarship at the Karajan Academy of the Berlin Philharmonic, assisting Kirill Petrenko. Born in Aomori, she studied at Tokyo University of the Arts and the Hanns Eisler School of Music in Berlin, where she is now based.



---

# FUJIKI Daichi

---

Countertenor

**藤木大地**  
[カウンターテナー]

2017年、オペラの殿堂・ウィーン国立歌劇場に《メデア》ヘロルドで鮮烈にデビュー。2012年、第31回国際ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ声楽コンクールにてハンス・ガボア賞を受賞。同年、日本音楽コンクール第1位。2013年、ボローニャ歌劇場にて《クレーリアの勝利》マンニオでヨーロッパデビュー。国内では、主要オーケストラとの公演や各地でのリサイタルがいずれも絶賛を博している。

近年では、アメリカ2都市やシンガポールでのリサイタル、マカオ管弦楽団「マタイ受難曲」、調布国際音楽祭2025《ロデリンダ》ベルタリード、新国立劇場《こうもり》オルロフスキー公爵など世界各地での演奏活動、全曲を無伴奏で収録した2枚のアルバム「A cappella」のリリースと5都市ツアー、プロスポーツイベントでのセレモニー歌唱など、トップランナーと称されるにふさわしい唯一無二の活躍を続ける、日本が世界に誇る国際的なアーティストのひとりである。洗足学園音楽大学客員教授。

Official Website: [www.daichifujiki.com](http://www.daichifujiki.com)

Fujiki made a brilliant debut at the hallowed Vienna State Opera in 2017, in the role of the Herald in Medea. In 2012, won the Hans Gabor award at the 31st International Hans Gabor Belvedere Singing Competition and placed first in the Music Competition of Japan. In 2013, made his European debut at the Teatro Comunale di Bologna in the role of Mannio in Il Trionfo di Clelia. Has continued to be active as a top performer around the world in recent years, including in a recital in two American cities, the Macao Orchestra's performance of The St Matthew Passion, the role of Orlovsky in the New National Theatre, Tokyo's production of Die Fledermaus (2026), releasing two albums, A cappella and A cappella II, and performing ceremonial songs at professional sporting events. Guest professor at Senzoku Gakuen College of Music.

Official Website: [www.daichifujiki.com](http://www.daichifujiki.com)

# 6/27 6/28

SAT

SUN

ポール・デュカス(1865~1935)

## 交響詩「魔法使いの弟子」

魔法使い(の弟子)に扮したミッキーが、箒の大群とバケツ(桶)から溢れる洪水のような水に襲われる、ディズニーのアニメーション映画「ファンタジア」(1940)の中の一場面。その映像の動きと一体化した音楽として一躍有名になったのが、ポール・デュカスの《魔法使いの弟子》である。元々のタイトルは、ゲーテのバラッド「魔法使いの弟子」(1797)に基づく交響的スケルツォ。つまり、ゲーテの物語詩を忠実に管弦楽曲へと移し替えた交響詩である。

ゲーテのドイツ語による詩は、アンリ・ブラーズによって1843年にフランス語訳され、1863年に仏語訳ゲーテ詩集の一編として出版されている。魔法使いの師匠が外出中に、呪文の言葉を真似て箒を動かし、水汲みをさせようと目論む弟子は、箒を元に戻す呪文を知らず、次々と運ばれる水が洪水となっても止めることができない。とうとう箒を叩き割るが、それぞれの木片が動き出して、さらに水を運んでくる。絶体絶命と思われたところに師匠が戻り、箒を止める呪文が唱えられて終わる。

デュカスは、シューマンやリストらが手がけたゲーテ「ファウスト」の音楽化にはいずれも納得せず、ベートーヴェンの交響曲がもつ堅固な構造とユーモア(スケルツォ楽章)の要素を交響詩に取り入れ、さらにワーグナーの楽劇におけるライトモチーフの手法も組み込んだ。全体は

序奏とコーダを伴う、対称的なロンド・ソナタ形式である。彼は主要なエピソードに3つの音楽的アイディアを結びつけている。序奏冒頭6小節の魔法(使い)のモチーフは、前半の水のテーマと後半の箒のテーマからできている。このうち箒のテーマが、提示部でファゴットによってまず奏でられる有名なメイン・テーマへと発展する(残り2つのアイディアは、軽快なスタッカートによる弟子のモチーフと、降霊を表す金管楽器による逆付点のモチーフ)。

箒のテーマは楽器や曲想を変えて繰り返し現れる。リズムの軽快さ、ユーモラスな反復運動、劇的なクライマックス、整頓された構成、そして魔法を思わせる神秘的な和声、いずれをとっても、非の打ちどころのない傑作であり、ディズニーの新時代へと貢献したのも必然の結果である。

安川智子 Text by YASUKAWA Tomoko

作曲:1896年春~1897年2月

初演:1897年5月18日国民音楽協会演奏会、デュカス自身による指揮

編成:ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン4、コルネット2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、ハープ、弦5部

シャルル・グノー(1818~1893)

## 歌劇「ファウスト」から“ワルツ” “バレエ音楽”

1839年にローマ大賞を受賞しローマに留学中だったグノーは、ゲーテの『ファウスト』を愛読し、第1部を中心としたオペラ化を構想した。1849年には実際に作曲を試みるも、グノーが実際に本作のオペラ化を手がけることになるのは、1855年のことだ。1859年3月19日にリリック座で初演された際の評判は芳しくなかったものの、1861年ドイツでの初演以来、フランス国外では人気を博し、『ファウスト』はグノーの代表作と目されるに至った。

パリで再び本作が上演される運びとなったのは、1869年のことである。初演の際には地の台詞を含むオペラ・コミックの形式だったが、パリのオペラ座での上演にあたっては、慣例に従ってグランド・オペラの形式がとられ、台詞部分はレチタティーヴォに変更され、あらたにバレエ音楽が追加された。

「ワルツ」は、オペラでは第二幕の終盤で街の人々がワルツを踊る場面で登場する。ファウストがマルグリートの姿を見つけ愛を告白するも、この時点では思いは成就しない。すれ違う二人の愛とは対比的に、ワルツの仰々しいほどの輝かしさが際立つ。

「バレエ音楽」は全7曲で構成され、オペラでは第5幕「ワルプルギス」の場面で演奏される。悪魔メフィストフェレスがクレオパトラやヘレネーら古代の美女たちを出現させファウストを誘惑させる、なん

とも華々しく賑やかな場面だ。

**第1曲**(3/4拍子、イ長調)は鮮烈な不協和音で始まる序奏に続き、軽やかなワルツが奏でられる。**第2曲**(4/4拍子、変ホ長調)は弦楽器の荘重さと管楽器を中心とする軽やかな部分との対比が印象的だ。**第3曲**(2/4拍子、ト短調)は軽妙な調べにタンバリンが効果的に響く。**第4曲**(2/2拍子、変ロ長調)は跳躍のある旋律が壮々と奏でられる。**第5曲**(6/8拍子、二長調)は幻想的な序奏に続き優雅な旋律が奏でられる。**第6曲**(2/4拍子、ト長調)は細やかで軽快な調べが小気味よく響く。**第7曲**(2/4拍子)は激しさと穏やかさが入り混じった大団円となる。

成田麗奈 Text by NARUTA Reina

作曲:1856~1859年(オペラ)、1868年秋(バレエ音楽部分)

初演:1859年3月19日パリ、リリック座(オペラ・コミック版)、1869年3月3日パリ、オペラ座(バレエ音楽付グランド・オペラ版)

編成:ピッコロ、フルート、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、ホルネット2、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、タンバリン、ハーブ、弦5部

# 6/27 6/28

SAT

SUN

フェリックス・メンデルスゾーン(1809~1847)

## 序曲「静かな海と楽しい航海」op.27

メンデルスゾーンの序曲としては《夏の夜の夢》と《ヘブリディーズ諸島(フィンガルの洞窟)》の2作が抜きでポピュラーだが、本日演奏される《静かな海と楽しい航海》、そして《美しいメルジーネの物語》も劣らぬ名曲である。これら4作を彼は「演奏会用序曲」と名付け、1番から4番までの番号を与え、1835年にまとめてフルスコアとして出版した。後の時代の交響詩の先駆けに位置付けられる、音楽史上、画期的な作品群である。

それまでの序曲は、ともすると単に開始を告げる音楽が多かったのに対し、メンデルスゾーンは、文学に触発され、また旅先の風土や気候からインスピレーションを受けて、まったく新しい表現世界を切り開いた。オーケストラの多彩な音色と幅広いダイナミクスを駆使し、音のみによって自然の豊かさ、自然に対峙する人々の喜びと畏怖をも描き出したのである。

なかでも、第3番《静かな海と楽しい航海》は、2管編成のオーケストラにピッコロとコントラファゴット(オリジナルではセルパン重複)を加え、さらにはトランペットを通常の2本ではなく3本用いた意欲作である。作曲は1828年2月、メンデルスゾーンが19歳の誕生日を迎えた頃。ゲーテによる一対の詩「静かな海と幸ある航海」(1796年)に触発され、作曲の筆を執った。以下、〈 〉内に詩を引用しつつ、解説しよう。

前半〈海の静けさ〉は、弱音に貫かれた

アダージョ。コントラバスによる開始から対位法風に主題が紡ぎ出され、〈大海原の深い静けさ〉と〈微動だにせぬ水面の果てしなさ〉が描かれる。弦楽器の各パートがしばしば2つに分けられ(divisi)、無限の広がりを感じさせる。軽やかなフルートの響きに導かれて、後半の〈楽しい航海〉が始まると、弦・管楽器ともに急速、活発に広音域を駆け巡り、うねり、〈日が射し、風が吹き、波が立つ〉様子と〈水夫の心の浮き立ち〉を伝える。ティンパニの力強い連打を経て到達する終結部(アレグロ・マエストーン)の疾走感、トランペット3本によるファンファーレも見事だが、最後の3小節でフォルテシモからピアノシモへと音量を減衰し、余韻を残して消えていく終結が実に美しく斬新である。

星野宏美 Text by HOSHINO Hiromi

作曲:1828年2月~9月初稿、1833/34年改訂

初演:1834年4月20日、ライプツィヒのゲヴァントハウスにて(1835年10月4日、同所にてメンデルスゾーンの指揮により再演)

編成:ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン2、トランペット3、ティンパニ、弦5部

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)

## 運命の女神の歌 op.89

1882年、ブラームスは避暑地イシュルに滞在していた時期に作曲したのがこの《運命の女神の歌》である。この作品は、それまでの管弦楽作品や合唱作品で用いてきた表現と比較すると異質である。コントラファゴットや3本のトロンボーン、チューバを含むオーケストラと、アルト2部、バス2部、そしてソプラノとテノールの計6部の合唱で、中音域及び低音域を充実させており、これはテキストに対する彼の作曲意図に基づいている。

ゲーテの「タウリスのイフィゲーニエ」の第4幕から、テキストをとったこの詩が描いているのは全能の神と無力な人間である。故郷から追われたイフィゲーニエは人間を支配する神々を嘆く。《運命の女神の歌》が歌う歌詞は、支配者である神々はすべての人間を退け、神々と人間の間だけではなく、老人は自身の子供や孫との関係すら否定する。1883年2月25日付のフリッツ・ジムロック宛の書簡でブラームスはこう述べている。

「あらゆることが、流れゆくのではなく、転がり落ちるように崩れ行くような町や国では、あなたは音楽をもっと良いものにするには期待することはできない。…私はいまでもカタストローフがやってくると思っている。」

この書簡は、《運命の女神の歌》の作曲の時期にブラームスはただならぬ不安を

感じていたことを物語っている。この作品に感動を強く表明したのがクララ・シューマンである。1882年8月23日の書簡はこう語る。

「この作品は何と素晴らしいんでしょう。徹頭徹尾、何と天才的で、そこには何と深い美があり、最初の音から最後の音までなんと感動的なのでしょうか。あなたは音の中にテキストの陰鬱で秘密にみちた力を素晴らしい形で表現しています。4分の3拍子のところの柔和で、しかし悲しげな詩句はなんと感動的なことでしょうか。この作品が私にどれほどの喜びを与えてくれたのか、言葉では言い表せません。」

この作品は《ドイツ・レクイエム》の創作の一つの発展でもあり、人間の魂の問題へのブラームスの思想の深化を示している。

西原 稔 Text by NISHIHARA Minoru

作曲:1882年夏

初演:1882年12月10日バーゼル音楽ホール、ブラームス指揮、マイニンゲン公ゲオルクに献呈

編成:フルート2(ピッコロ持替2)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦5部、混声合唱

# 6/27 6/28

SAT

SUN

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)

## アルト・ラプソディ op.53

ブラームスは、1868年9月にシューマンの三女のユリエがマルモリート伯爵と結婚したことを知る。ユリエに密かに想いを寄せていて深く絶望したブラームスは、深い厭世観にとらわれ、それがこの作品の創作に結びついていると語られることが多い。しかし、創作の背景は輻輳している。ブラームスは1868年8月にヘルマン・ダイタースを訪問した折に、18世紀後半に活躍した作曲家フリードリヒ・ライヒャルトの作曲した《ラプソディー》(1790年刊行)を通してゲーテのこのテキスト(「冬のハルツの旅」)を知り、ブラームスはこの作品にライヒャルトの付した《ラプソディー》という標題を付した。寂寥たる荒野をさまよう魂の歌は、開放的な「リナルド」、慰安と慈悲に満ちた《ドイツ・レクイエム》と比較しても衝撃的な作品で、アルトという声種に深い芸術的な境地を開いた作品でもある。ブラームスから送付された作品を見た友人のアルベルト・ディートリヒは「私に送付されたこのラプソディーは、彼が心の奥底から感じ取った作品だ。この作品は、自分の生命をもったかのように、人々の魂をもはや決して忘れることがないほどにしっかりと捉える。」と述べている。このテキストは聖書の世界と深く結びついている。「荒野」はイエスが精霊によって40日間、荒野に放たれた記述を想起させ、「泉」も同様である。「愛する父」にはおそらく神が意図されている。ブラームスはゲーテのこの

詩の前半のみをテキストに用いた。原詩の後半では、神に祝福を与えることを祈願し、夜は松明の光で人々の足元を照らし、冬の溪流は賛歌となり、雪に覆われた山々に祈りをささげる。しかし、ブラームスは最後の部分をオーケストラの後奏に委ね、苦悩する魂が祝福され、昇華されるという表現で締めくくった。

この《アルト・ラプソディ》では下行音階動機が象徴的な役割を担うが、第116小節からの詩句では救われたかのような全音階的な表現に変わり、「愛(Liebe)」という語が強調されており、この語がこの作品のもっとも重要な表現であったことが示されている。

西原 稔 Text by NISHIHARA Minoru

作曲:1869年9月

初演:1870年3月3日イエーナ、ローゼンサール

編成:カウンターテナー独唱、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦5部、男声合唱

# ヨハネス・ブラームス:運命の女神の歌 op.89

詩: ヨーハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ

(歌詞対訳) 訳:三ヶ尻 正

---

Es fürchte die Götter  
das Menschengeschlecht!  
Sie halten die Herrschaft  
in ewigen Händen,  
und können sie brauchen,  
wie's ihnen gefällt.

Der fürchte sie doppelt  
den je sie erheben!  
Auf Klippen und Wolken  
sind Stühle bereitet  
um goldene Tische.

Erhebet ein Zwist sich,  
so stürzen die Gäste,  
geschmäht und geschändet  
in nächtliche Tiefen  
und harren vergebens,  
im Finstern gebunden,  
Gerechten Gerichtes.

Sie aber, sie bleiben  
in ewigen Festen  
an goldenen Tischen.  
Sie schreiten vom Berge  
zu Bergen hindber:

人間の種族は  
神々を恐れよ!  
神々は永遠の手に  
差配する力を持っていて  
自分たちの思うように  
使うことができるのだ。

神々によって高みに招かれた者は  
さらに倍ほども神々を恐れよ!  
崖の上、雲の上では  
黄金のテーブルの周りに  
席が用意してある。

いざいざいが起こると  
訪れていた者たちは  
罵(のの)しられ、辱(はずか)しめられて  
夜の深みへと落とされ、  
暗い闇に縛り付けられて  
むなしく義なる審判を  
待つばかりとなる。

神々は、しかし  
ずっと黄金のテーブルのまわりで  
祝宴を続ける。  
神々は山から山へと  
渡り歩く。

6/27 6/28

SAT

SUN

Aus Schlünden der Tiefe  
dampft ihnen der Atem  
erstickter Titanen,  
gleich Opfergerüchen,  
ein leichtes Gewölke.

Es fürchte die Götter  
das Menschengeschlecht!  
Sie halten die Herrschaft  
in ewigen Händen,  
und können sie brauchen,  
wie's ihnen gefällt.

Es wenden die Herrscher  
ihr segnendes Auge  
von ganzen Geschlechtern  
und meiden, im Enkel  
die ehemals geliebten,  
still redenden Züge  
des Ahnherrn zu sehn.

So sangen die Parzen;  
es horcht der Verbannte,  
in nächtlichen Höhlen,  
der Alte, die Lieder,  
denkt Kinder und Enkel  
und schüttelt das Haupt.

深みの口が空いていて、そこからは  
窒息させられた巨人タイタンたちの息が  
神々のところへと湧き出ている。  
まるで生贄の動物から  
立ちのぼる香煙のような軽い霞が。

人間の種族は  
神々を恐れよ!  
神々は永遠の手中に  
差配する力を持っていて  
自分たちの思うように  
使うことができるのだ。

支配者たる神々は  
祝福の眼差しを  
あらゆる種族からそむけ、  
子孫たち、かつて愛した者たちの中に残る、  
祖先たちのしるし、  
静かに語っているしるしも  
見てくれようとはしない。

運命の女神たちはそのように歌った:  
夜の洞穴の中で  
追放された男には  
そのいにしえの歌が聞こえている。  
子どもたちと子孫たちを思って  
彼は頭を震わせる。

# ヨハネス・ブラームス:アルト・ラプソディ op.53

ゲーテ『冬のハルツの旅』からの断片 op.53

(歌詞対訳) 訳:三ヶ尻 正

---

Aber abseits, wer ist's?  
Ins Gebüsch verliert sich sein Pfad,  
hinter ihm schlagen  
die Strauche zusammen,  
das Gras steht wieder auf,  
die Öde verschlingt ihn.

Ach, wer heilet die Schmerzen des,  
dem Balsam zu Gift ward?  
der sich Menschenhaß  
aus der Fülle der Liebe trank?  
Erst verachtet, nun ein Verächter  
zehrt er heimlich auf  
seinen eignen Wert  
in ung'nügender Selbstsucht.

Ist auf deinem Psalter,  
Vater der Liebe, ein Ton  
seinem Ohre vernehmlich,  
so erquickte sein Herz!

Öffne den umwölkten Blick  
über die tausend Quellen  
neben dem Durstenden  
in der Wüste!


だが道をそれて行くあれは誰だ?  
彼が通った小道は茂みの中へと消えて行き  
あとには灌木が  
折り重なるように茂って行く。  
踏まれた草も地面から再び起き上がり、  
荒涼とした藪(やぶ)が彼を絡め取り、隠してしまう。

ああ、誰が痛みを鎮(しず)めてやれるのだろうか?  
香薬を毒としか感じられなくなった者の痛みを?  
満ち溢れる愛の中から、なぜか  
人間への嫌悪を呑み取ってしまった男を?  
かつては蔑(さげす)まれていて  
今や人を蔑んでいるのだが、  
我欲ばかりを追いつつ満足を得られぬまま  
知らぬ間に自分の価値を  
使い果たしてしまった男を?

愛の父よ、あなたの  
ブサルテリウム[\*天使が抱えて弾く撥弦楽器]で  
彼の耳に届く曲が奏(かな)でられるなら、  
その曲で彼の心に力を与えて下さい。

荒野(あらの)で喉(のど)を潤らした男の  
眼から曇りを取り除き、彼のそばに湧いている  
千もの泉が見出せるように  
その眼を開かせてやって下さい。

【許可のない複製・転載は法律で禁じられています】



# ヴァンスカの説得力

## ～フィンランドの名匠と東響による ベートーヴェンとラフマニノフへの期待

文 那須田務(音楽評論家)

6月最初の定期に登場するのはフィンランドの指揮者オスモ・ヴァンスカ、東響とは昨年3月以来2度目の共演だ。

ヴァンスカは、近年マケラやペルトコフスキら若きスターを世に送り出している指揮者大国フィンランドで、エサ=ペッカ・サロネンとともに1950年代生まれの世代を代表する名匠だ。マケラやサロネンらと同様、シベリウス・アカデミーで名伯楽パヌラに師事した。ちなみに先のペルトコフスキが最も大切にしているパヌラの教えはオーケストラを助ける、邪魔をするな、徹底的に総譜を読み込めというもので(『音楽の友』2026年1月号取材・文 山崎浩太郎氏)、後述するようにこれ

らはヴァンスカの指揮に通底するものだ。その後29歳の時にブザンソン国際指揮者コンクールで優勝、その3年後の1985年にフィンランドのラハティ交響楽団の首席客演指揮者(88年に首席指揮者。2008年まで)となって、欧州一流のオーケストラに仕立て上げた。彼らの名声を高めたのは、BISレーベルからリリースされたシベリウスの交響曲全曲録音でヴァンスカ&ラハティ響は、初来日を果たした1999年にも全曲演奏会を行なって大いに話題になった。

このようにヴァンスカはシベリウスの優れた解釈者として知られるが、それだけではない。2003年から2022年まで首席指

揮者を務めたアメリカのミネソタ交響楽団とベートーヴェンの交響曲やマーラーの交響曲全曲録音を行なっているし、BBCスコティッシュ交響楽団とアムランと共演したコルンゴルトの左手のためのピアノ協奏曲など注目すべきディスクがあり、ベートーヴェンから現代音楽までレパートリーは広い。

そんなヴァンスカの魅力は、先のパヌラの教え通りの徹底したスコアの読み込みで裏打ちされた確かな解釈と細部の丁寧な仕上げ、楽団員の一人一人の気持ちを掻き立てて一つの方向にもっていく力量にあり、聴後に心の中で作品の全体像がくっきり姿を現わすような、あるいはすとんと腑に落ちるような強い説得力がある。それは昨年3月の東響の定期でも大いに発揮されていた。プログラムはニールセンの序曲《ヘリオス》、イスラエル出身の中堅バルナタンをソリストに迎えたベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番、そしてプロコフィエフの交響曲第5番。ニールセンの序曲の冒頭は「ヴァンスカのピアノシモ」と称される美しい弱音をさらに一回り抑えた「ppp」(まさにスコア通り!)で太陽が昇る様子が鮮やかに表現されていたし、ベートーヴェンの協奏曲ではソリストとともに、同曲の古典性と革新性を十全に引き出していた。プロコフィエフの交響曲は各楽器のフレーズの造形が美しく、とりわけ弦が見事に揃う。第2楽章は軽やかなアーティキュレーションが鋭い諧謔の精神を感じさせ、第3楽章は東響の弦の艶やかなサウンドと憧れに満ちた歌が快く、終楽章は淡い色彩の序奏から主部への移行が鮮やか。きめ濃やかな気配りで細部を扱いつつ全体の構造が明快に示された秀演だった。この公演に参加

した多くの楽団員が「リハーサルから本番まで幸せな時間がつづいた。非常に厳しい人だが、必要なことをしっかりと伝え示してくれるので、何度も演奏している曲でも様々な発見があった」と話していたという。

プログラムは交響曲の名作2曲、ベートーヴェンの8番とラフマニノフの2番である。前者は一見古典的な形式のコンパクトな作りながらリズムの扱いなど随所に革新的なところがあり、ぎゅっと中身が詰まった密度の高い作品。ヴァンスカは細部にこだわるが、音楽の流れは自然だ。ダイナミックな音楽の推進力と躍動感あふれる演奏が聴けるに違いない。室内乐的な各楽器の掛け合いが魅力的な第2楽章や牧歌的な第3楽章も楽しみだ。終楽章はリズムや強弱の振幅の大きさが面白い。ここでもヴァンスカのデュナーミク(強弱)の手腕が発揮される。先のミネソタ交響楽団との録音は、大自然に囲まれたアメリカのオーケストラらしく野性的で素朴な味わいだが、都会的に洗練された東響とはどうだろう。

ラフマニノフの交響曲第2番は1906年から7年、作曲家が33歳から34歳にかけて作曲された美しいメロディが連綿と流れる人気曲だが、ヴァンスカは北国出身の音楽家である。お涙ちょうだいのセンチメンタリズムに陥ることはないだろう。筆者が注目しているのは、第3楽章冒頭のクラリネットのソロ。ヴァンスカは指揮者になる以前はヘルシンキ・フィルのクラリネット奏者だったから楽器も吹き手の心も知り尽くしている(東響の首席奏者に期待)。これまでの楽章の動機を盛り込んだ華麗な終楽章も、スケールの大きな感動的な演奏となることだろう。

# 東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

\*新会員の方です。ありがとうございます(5月25日現在、五十首順)。

ご  
芳  
名  
(敬  
称  
略)

法  
人  
会  
員

## ●プラチナ会員

株式会社ティーワイリミテッド	株式会社ドワンゴ
株式会社フェイス	

## ●ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人	環境ステーション株式会社
株式会社伊藤総合事務所	株式会社すかいらくホールディングス
株式会社イノアックコーポレーション	株式会社日本財託
株式会社インサイド・アウト	株式会社パソナグループ
株式会社エイチ・アイ・エス	株式会社雅玖仁

## ●ゴールド会員

株式会社青山メインランド	西松建設株式会社
株式会社あ佳音	株式会社NIPPO
オリエンタル酵母工業株式会社	株式会社日本M&Aセンター
サントリーホールディングス株式会社	ヒノキ新薬株式会社
社会医療法人財団石心会	司法書士法人ふなざき総合事務所
玉川学園・玉川大学	ミヨシ油脂株式会社
中外製薬株式会社	ヤマザキビスケット株式会社
株式会社TFDコーポレーション	ヤマト科学グループホールディングス
株式会社鉄鋼ビルディング	税理士法人WATANABE
株式会社トーシンパートナーズ	

## ●シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト	月島食品工業株式会社
公益財団法人青梅佐藤財団	東京鐵鋼株式会社
川崎信用金庫	司法書士法人村田事務所
松竹株式会社	

## ●ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社	ニッシンエレクトロ株式会社
株式会社ヴァリユーズ	富士フィルムビジネス イノベーションジャパン株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー	神奈川支社
株式会社シグマコミュニケーションズ	前山歯科医院
新宿村スタジオ	株式会社LALLヒューマン ホールディングス
有限会社青史堂印刷	

## 賛助企業

政鬼運輸株式会社	山崎製パン株式会社
----------	-----------

匿名3社

●サークル50

伊藤 晴美 木暮 紀子  
伊藤 美樹 清水 尚彦  
沖田 陽子 山口 栞惠  
鷺海 量明 匿名 4名

●サークル25

荒木 陽子 手塚 和彦  
猪田 隆文 戸川 二郎  
井上 孝昭 長瀬 雅則  
岡野 一哉 山本 誠一  
加藤 英輔 匿名 2名  
後藤 実

●サークル10

天野 佳和 高津 麻子  
五十嵐 建平 高野 幸一  
井澤 菜緒 高島 琢己  
石川 晴依 高島 正行  
岩田 新 竹田 忍  
内山 誠彦 田中 建一  
梅沢 麻衣 谷川 啓  
遠藤 秀和 大谷 明雄  
大崎 明子 千葉 清  
大島 肇 角田 隆  
太田 純子 中澤 守  
大塚 具幸 中村 豊  
岡 邦子 成瀬 倉祥  
尾崎 茂 西原 公男  
片山 泰輔 原田 美保子  
片山 千栄 枇杷 高志  
金山 尚弘 久人 聡  
金子 元 増岡 一郎  
金田 好生 三浦 睦美  
木賀 賢市 森 京子  
菊池 光剛 森口 健  
木内 正則 森下 匡  
小林 健 森下 匡  
古丸 和喜夫 山上 彦  
近藤 秀子 山口 重雄  
斎藤 佐々木 山本 明  
佐野 利勝 吉井 久美子  
清水 幹雄 吉江 治彦  
白井 恭一 鈴木 美恵子  
鈴木 信恵 匿名 12名  
高澤 美貴子  
高田 光官

●フレンズ5

東 恭代 大野 紀子  
有江 純子 奥秋 和彦  
石原 祥子 奥秋 雄一  
潮田 伊織 河野 愛  
大川 朋彦 小林 義彦

塩澤 誠司  
高際 比呂志  
寺西 基之

中尾 守  
中島 信男  
早川 利郎

松信 正志  
村松 秀幸  
山口 聡

山田 修造  
山本 喜良  
吉田 哲四郎  
匿名 4名

●フレンズ3

秋山 真一郎  
明田 重樹  
荒 洋一  
石澤 卓志  
井上 聡  
岩瀬 正明  
大崎 透  
大塚 啓司  
大埜 展男  
大橋 昌資  
岡村 兵衛  
岡本 康毅  
小川 篤藤  
奥田 桂子  
奥田 夕里  
小澤 俊文  
尾島 切明  
小田 修  
皆瀬 政晴  
加藤

加藤 美子  
兼子 伸彦  
菊池 伸治  
池 万裕  
北川 洋  
久保 光司  
久保 一穂  
小泉 博  
河野 太  
小村 曾  
古杉 絢  
小平 信因  
小林 美智子  
小山 智代子  
佐藤 健司  
佐藤 元  
清水 元枝  
清水 和浩  
新保 弘也  
杉田 聡明  
鈴木

須田 眞理子  
関根 三善  
高坂 麻由  
内田 美由  
田山 智広  
都築 豊  
富田 博之  
永村 直彦  
中村 元嗣  
中井 幸雄  
永井 洋一  
西田 悦子  
西田 尚弘  
根本 研一  
野島 暢明  
林 秀太郎  
福田 美奈子  
昭夫

藤田 米  
野 盾臣  
森 朗智  
堀江 智巳  
松下 一彦  
三橋 正典  
村松 拓治  
山森 健治  
諸岡 暄子  
数下 真平  
山中 喜義  
山 美お  
鏡 横尾 順  
水 宗寿  
横沢 吉田 公彦  
\* 吉田 真紀子  
\* 吉原 美紗惠  
和田 吉原 真理  
Max Wong  
匿名 26名

●フレンズ1

■あ  
相磯 浩  
赤坂 住子  
赤坂 淳志  
秋元 恵志  
朝倉 わか子  
浅見 文男  
安達 郁夫  
阿部 靖彦  
生田 裕一  
池田 弘毅  
池田 由紀  
石川 浩平  
石丸 政幸  
石渡 幸一郎  
手井 泰宏  
伊藤 勉  
伊藤 雅博  
伊藤 宗功  
稲垣 貴代  
稲葉 順一  
井上 聖恵  
井上 康子  
今井 正  
今井 田  
今宮 美知子  
今村 知子  
岩澤 淳子

岩野 裕一  
岩村 亮  
岩本 亮  
上田 洋子  
白居 昭  
白田 泉  
内海 重男  
内山 誠  
宇野 正芳  
宇野 拓志  
梅原 耕司  
梅崎 秀元  
梅本 千枝子  
江藤 祐子  
大泉 雄彦  
大泉 成美  
大川 剛  
大越 貴志  
大島 克義  
大島 初彦  
大島 康彦  
大須賀 裕美子  
大須賀 徳也  
大塚 賢久  
大友 英司  
大友 智弘  
大貫 智由  
大畑 喜信  
大畑 美裕  
大森 幸吉  
大八木 節子

久 京子  
岡田 浩  
岡田 政  
岡田 正徳  
岡田 美徳  
岡野 明德  
岡本 勝利  
小川 幾子  
小川 知子  
沖 和歌子  
奥秋 亮  
奥泉 由美子  
奥泉 壮史  
奥村 茂彦  
奥村 克彦  
小倉 雅恵  
小倉 信也  
小野 英樹  
小野 純二  
\* 小野 塚美和  
■か  
海藤 慶子  
香甫 大樹  
角山 美知子  
方波 見  
葛城 伸  
加藤 聖隆  
加藤 洋子  
加藤 里加子  
川上 真理

川口 善行  
名川 康一  
野野 安和  
菅野 安和  
菅野 広和  
岸本 裕子  
北野 雅子  
北野 真  
木下 泰平  
木村 亮  
木村 好一  
木村 強  
清田 富土子  
久保 正理  
倉谷 安樹  
栗原 潔  
小石 惠子  
小糸 健治  
国府 里美  
国府 保周  
寺小 駿  
小西 淳  
小沼 敬四郎  
小林 恭一  
小林 光  
小林 宏州  
小林 浩  
近内 光一  
近内 友史  
後藤 敬秋

# 東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

\*新会員の方です。ありがとうございました(5月25日現在、五十音順)。

後藤 美穂  
後藤田 裕二  
■ さ  
齋木 一宏  
齋藤 ひろ子  
齋藤 博  
酒井 典子  
坂本 タカ子  
前刀 禎明  
櫻井 智仁  
佐々木 哲生  
佐々木 紀明  
佐々木 通博  
佐々木 基  
佐藤 香  
佐藤 幸子  
佐藤 信一郎  
佐藤 勝  
佐藤 大助  
佐藤 大  
佐藤 深雪  
佐藤 美和子  
佐藤 由紀子  
重成 暉  
茂野 俊郎  
穴戸 宗太郎  
篠田 一朗  
篠橋 辻也  
淡川 朋子  
嶋島 宏明  
嶋島 知里  
清水 重夫  
志村 崇  
下田 和代  
庄司 一彦  
白石 大ひろみ  
新藤 啓次  
杉山 慎二  
鈴木 慶子  
鈴木 啓介  
鈴木 康史  
鈴木 孝治  
鈴木 隆之  
鈴木 智子  
鈴木 美和  
鈴木 諏訪  
清水 達  
清水 穂名美  
関口 洋  
■ た  
高岡 美保  
高木 一茂  
高木 敏和  
高木 敏和  
高木 敬和  
高野 洋二  
高野 勝弥  
高橋 嗣奈子  
高橋 美穂  
高橋 有

高橋 里奈  
高橋 典雄  
高森 幸男  
竹内 聖子  
竹内 真也  
竹内 みお  
竹内 竜太  
尾武 和彦  
竹腰 正隆  
竹下 裕行  
武田 沙智子  
田代 遼太郎  
田島 敬子  
多田 中  
田中 恒美  
田中 永禎  
田邊 二  
田端 泰弘  
田淵 正浩  
玉井 晴久  
千田 千葉  
塚田 和男  
塚田 寛  
築館 玲子  
辻 直浩  
辻内 牧子  
坪井 洋一  
寺田 治男  
遠山 淳夫  
山登 明史  
友近 圭祐  
柄森 祥悟  
豊島 幸生  
鳥居 順子  
鳥居 夕紀夫  
■ な  
中沢 忠  
\*中村 紀美子  
長瀬 利明  
永田 郁子  
長濱 通子  
\*縄田 淳  
西岡 直美  
西岡 昌紀  
西岡 晶  
西中川 淑子  
西村 真  
西村 陽子  
西山 英昭  
根本 直之  
野口 信弘  
野島 紀久  
野村 一成  
野村 真澄  
■ は  
橋爪 千鶴子  
橋本 千雄  
橋本 恵人

長谷川 寿一  
長谷川 博  
長谷川 真  
長谷川 真  
秦 実  
早川 明男  
林 博子  
林本 秀範  
原 ひとみ  
原 慶子  
原田 容子  
春川 京子  
半谷 枝子  
坂東 泰子  
肥後 恵子  
榎谷 亜樹  
平岡 行雄  
廣岡 奏文  
廣瀨 奏文  
廣中 直行  
深沢 茂美  
藤生 容子  
藤原 正之  
古市 文子  
古川 郁子  
古澤 美樹  
古屋 清敏  
文星 永清  
文 直樹  
細川 由利子  
堀 浩史  
堀川 信子  
本多 真世  
■ ま  
牧口 光郎  
真木 太郎  
真木 正明  
真木 和弘  
真木 弘樹  
真木 秀樹  
真木 圭子  
真木 聡  
真木 泰之  
真木 繁純  
真木 弘  
真木 晴彦  
真木 純子  
真木 博  
真木 悦子  
真木 雅之  
真木 健司  
真木 哲  
真木 夫昇  
真木 好江  
真木 誠幸  
真木 信子  
真木 英一  
真木 里美  
真木 政和

■ や  
柳 安永  
柳 友幸  
柳山 裕兒  
山岸 勇一郎  
山口 由美子  
山崎 美生子  
山本 恵子  
山本 博  
湯川 俊明  
横田 初恵  
吉居 秀修  
吉江 健志

吉岡 真紀子  
吉田 暢子  
吉田 裕美  
吉田 美紀  
吉富 享  
吉見 幸子  
吉見 光  
米田 恵子  
米田 由起子  
\*米谷 由起子  
■ わ  
渡辺 敦郎  
渡邊 朋子  
T.Saito  
匿名170名

## ■ 栄誉会員

ヨーコ・ナガエ・チェスキーナ

## 遺贈・相続ご寄付(敬称略)

竹内 容子 岡橋 純男  
齋藤公治 岡橋 孜  
メモリアル基金

## 法人定期会員

### 【定期演奏会】

東京コンテナ工業株式会社

【東京オペラシティシリーズ】  
SATO社会保険労務士法人



## 特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しません。特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

都築 豊 松永 勝宏  
坪井 洋一 森山 雅一郎  
東 由美子 匿名 14 名  
藤井 照子 (敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター  
044-520-1511へお電話をお願いいたします。

# 東京交響楽団サポート会員制度

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。

そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

## 個人会員

### フレンズ1

年額1万円～29,999円

### フレンズ3

年額3万円～49,999円

### フレンズ5

年額5万円～99,999円

### サークル10

年額10万円～249,999円

### サークル25

年額25万円～499,999円

### サークル50

年額50万円～

## 法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、会社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

### ブロンズ

年額10万円～

### シルバー

年額30万円～

### ゴールド

年額50万円～

### ダイヤモンド

年額100万円～

### プラチナ

年額1000万円～

## 会員特典

詳細はHP、  
又はお電話でお問合せ下さい

会員特典	法人会員	サークル 会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 <sup>*1</sup>	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 <sup>*2</sup>	○	○	○	○	○

<sup>\*1</sup>一部対象外もございます。<sup>\*2</sup>東京交響楽団の主催公演およびミュウザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

## 税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分<sup>\*1</sup>について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。<sup>\*3</sup>

<sup>\*3</sup>但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail [supporters@tokyosymphony.com](mailto:supporters@tokyosymphony.com)

# NEWS & TOPICS

## 正団員

2026年6月1日付

### 務川広貴

MUKAWA Hiroki  
[クラリネット奏者]

桐朋学園大学、同研究科を経て、桐朋オーケストラ・アカデミー修了。  
桐朋学園大学卒業演奏会、第41回読売中部新人演奏会に出演。  
クラリネットを亀井良幸、亀井良信、三界秀実、芳賀史徳、金子平の各氏に師事。  
Quintet Lazoメンバー。



## 新入団

2026年5月25日付

### 澤戸雅美

SAWATO Masami  
[事務局]

## 新音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティ 就任記者会見開催

5月21日(木)、ミュゼザ川崎シンフォニーホール舞台上において、新音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティの就任記者会見を開催しました。

音楽監督就任披露公演第1弾を終えたヴィオッティ監督は、集まった音楽関係者からの質問一つひとつに丁寧に応じ、東京交響楽団とともに歩み始める新たな音楽の旅への思いや、オーケストラへの印象について語りました。

新たな時代の幕開けを印象づける、和やかで充実したひとときとなりました。



©平藤平

# NEXT PROGRAM

7/7  
TUE

## 東京オペラシティシリーズ 第150回

19:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮:大植英次

ベートーヴェン:交響曲 第6番「田園」  
ブラームス:交響曲 第2番

S¥7,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



©坂島隆

7/18  
SAT

## 第743回 定期演奏会

18:00 サントリーホール

7/19  
SUN

## 第147回 新潟定期演奏会

17:00 リゅーとびあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ

ブラームス:交響曲 第3番  
ドヴォルザーク:交響曲 第7番

[7/18]S¥9,500 A¥7,500 B¥6,500 C¥4,500 P¥3,500

[7/19]S¥8,500 A¥7,000 B¥5,500 C¥4,000 P¥3,000



©Jan Willem Kaldenbach

[7/7,7/18]TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511(平日10:00 ~ 18:00 /土日祝休)

[7/19]リゅーとびあチケット専用ダイヤル 025-224-5521(平日10:00 ~ 17:00 /休館日除く)



©T.Taira date



# 東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ  
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」[0歳からのオーケストラ]も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45台カメラを用いた《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、第3代音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウスコンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スダーン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

2026年4月よりロレンツォ・ヴィオッティが第4代音楽監督に就任。

Founded in 1946 as the Toho Symphony Orchestra, the ensemble adopted its current name, the Tokyo Symphony Orchestra, in 1951. It presents subscription concerts at Suntory Hall, Muza Kawasaki Symphony Hall, and Tokyo Opera City Concert Hall, and has received nearly all major music awards in Japan, including the Minister of Education Award. In addition to serving as the resident orchestra of the New National Theatre, Tokyo, the orchestra is actively engaged in collaborations with local governments such as Kawasaki City and Niigata City, as well as in a wide range of community and educational programs, including the "Kodomo Subscription Concerts" and Kids Programme ~Orchestra Experience from the age of "0 years". Its international activities, including performances at the Musikverein in Vienna and the "Asia Project," have also attracted considerable attention.

The orchestra has further distinguished itself as a leader in digital innovation within the classical music world, being the first Japanese orchestra to launch a music and video streaming subscription service, as well as introducing VR orchestra experiences and electronic ticketing. In 2020, a live-streamed concert without an audience on the Nico Nico Live platform drew approximately 200,000 viewers, and in December 2022, its performance of Beethoven's Symphony No. 9—filmed with a record 45 cameras—garnered widespread attention.

In recent years, under the leadership of its third Music Director, Jonathan Nott, the orchestra has attracted significant attention as one of Japan's leading orchestras. In *Onkagu no Tomo* magazine's "Top 10 Concerts," *Salome* (2022) was ranked second, followed by *Elektra* (2023), which was ranked first. The third and final of the project, *Der Rosenkavalier* (December 2024), also received outstanding critical acclaim.

Lorenzo Viotti becomes 4th Music Director in April 2026.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO TOKYO SYMPHONY  
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト「TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION」  
1か月550円(税込)



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

## Symphony

Symphony 2026年(令和8年)6月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団

〒169-0073 東京都新宿区西千代町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス>

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュゼ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクリエイト

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮した  
ユニバーサル・デザインフォントを使用しております。